

七友会 だより

興味を持って、前向きに

七友会会長 佐原 和典

3月に入り、岩手山の雪姿もくっきり見えるようになり、鳥の声が日に日に春の訪れの近いことを告げています。また、一つ年を重ねて、新たな卒業の季節がやってきました。皆さん、いかがお過ごしでしょうか。

この冬は暖冬だといわれ、昨冬のような大雪はないだろうと安心していました。が、なんという冬でしょうか。真冬はついに一日もなく、道路が雪に覆われたのは、さて何日あったのでしょうか。私が岩手の地を踏んでこのかた、このような冬はありませんでした。異常というだけでは済まされないような、あきらかに気候が変わってしまった気がします。初めて、岩手の冬を体験した30年近く前、アパートの風呂釜が凍ったとか、部屋のコップの水が凍ったとか、びっくりする話が、いろいろありました。鼻が凍るような寒さの中を、登校したこともありました。高松の池でスケートが出来たのが、遠い昔話になってしまいました。こうした地球温暖化一つを考えても、様々な要因が複雑に絡みあい一つの要素からだけでは、全体像を掴むことはできません。今や個別、専門的な視点の他に、全体をみる総合的視野が求められています。一時、持て囿された総合職は、いつしか姿を消してしまいましたが、姿をかえた、総合力として求められているのではないのでしょうか。

話は変わりますが、最近私は、人名、特に姓に再び興味を持つようになりました。テレビなどで、変わった名字を目にすると、出身地が気になってしまいます。東北では、名字から出身地が推測できるものが多いのですが、こうした研究は少なく、限られています。変名を求めているわけではありませんが、世帯の少ない姓は、そのいわれが知りたくなるのです。

ところが市内の図書館には姓氏辞典のあるところが少なく、この手の蔵書も非常に少ないのが現状です。学生時代に知り合った一人は、「一葉」と書いて「いっば」という名字でした。出身の富山でも数軒だけだと聞いています。私の先祖は福島、会津方面から来たと言われていましたし、ある人の調査では、会津地方の出で、先祖が同じだといわれ家系図をいただいたこともあります。また、先日話をした花巻市大迫町の方から、実は先祖が「平家の落人」などと聞くと、西国ばかりでなく東国の奥地まで逃げのびた平家の人々の動きを調べてみたくもなります。

興味を持つということは脳への刺激にもなるようで、年齢と共に衰える記憶力の維持にも効果的ではないでしょうか。

最近、書店で目につく「～力」という事は、総じて考えると一物事を判断する総合力のような気がします。新たな技術の開発や理論の構築も、いわゆる異業種交流という、様々な分野を横断的に総合的に考えられる視点から発しているのではないのでしょうか。ある意味では、総合力の再認識です。わからないと諦めずに、社会の様々な事に関心、興味を持ちませんか。自己の脳の活性となにかおかしな社会の活性のためにも…。

目次

興味を持って前向きに	1
民俗芸能サークル「ばっけ」の 海外公演に補助	2
修士論文発表会	3
同窓会 - 舞浜 -	3
「全学同窓会」その後の動き	3
卒業を迎えられた皆さんへ	4
学部就職ガイダンス開催	4
定年退官される先生	4



Uwate
University
岩手大学

民俗芸能サークル「ばっけ」の海外公演に補助

民俗芸能サークルばっけは、県内の民俗芸能の発掘、保存を行なっている学生サークルで、人文社会科学部の樋口知志教授が顧問をされています。この「ばっけ」より、スペイン・サラマンカで行なわれる「第31回ジャパン・ウィーク2006年」(財団法人 国際親善協会主催)への参加費への補助の申し出がありました。11月2日(木)役員等で検討したところ、「国際交流を通して、岩手大学や学部のPR及び岩手の文化のPRにもつながるので、会員活動の援助の特例として認める」ということになり、参加経費の一部(10万円)を補助しました。総勢25名中、人文社会科学部学生は9名が参加し、次のような活動報告が寄せられています。

活動報告書

岩手大学人文社会科学部同窓会 御中

平成18年12月8日

岩手大学民俗芸能サークルばっけ

人文社会科学部代表 国際文化課程三年 花井みゆき

第31回ジャパンウィーク2006年スペイン・サラマンカ(主催:財団法人国際親善協会)
に以下の日程・人数で参加しましたことをご報告申し上げます。

- ・ 参加人数:当サークル所属の学生25名

- ・ 公演・パフォーマンス日程(現地時間)

11月23日	マヨール広場にて野外パフォーマンス(2回)
11月24日	国際会議場展示場で「民族舞踏交流プログラム」参加
11月25日	サラマンカ大学にて学生フェスタ交流 リセオ劇場にて劇場公演
11月26日	サンチェス・パライソホールにてクロージングセレモニー

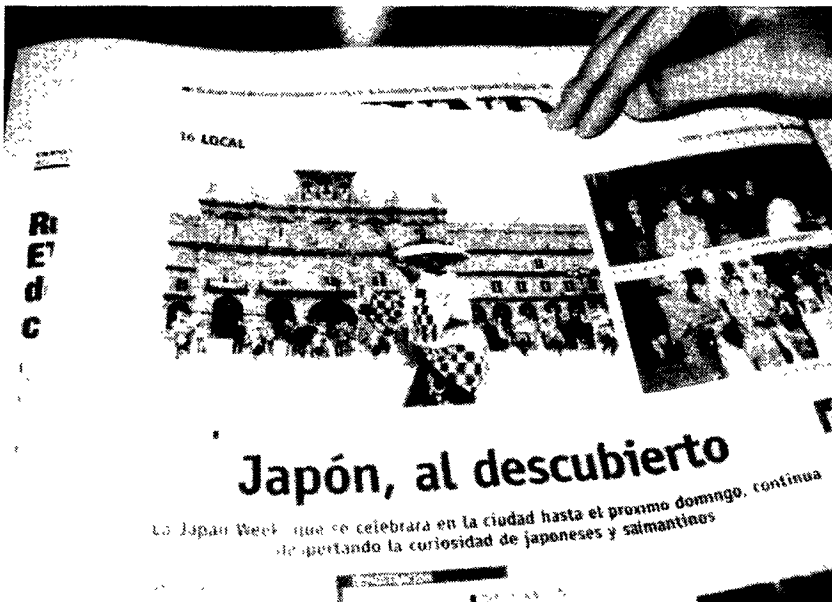
市を挙げてのフェスティバルで、ローカルメディアにもジャパンウィークは大きく取り上げられており、市民の皆さんも熱く歓迎してくださいました(現地の新聞のコピーと新聞の写真を添付します)。23日に踊ったマヨール広場は世界遺産に指定されている歴史ある美しい広場で、市の許可を得てその広場の中央で踊らせていただきました。

サラマンカ大学の学生の皆様や、現地の民族舞踏団体の方、また参加された日本各地の方とも有意義で楽しい交流を持つことができました。

最後になりましたが、この度は多額の助成をいただきまして大変ありがとうございました。今回の貴重な経験を生かしてますます上達に励み、岩手の民俗芸能の魅力を伝えてゆきたいと思っております。

参加者

名前	学年	課程
扇久保 勝也	3	国際文化課程
花井 みゆき	3	国際文化課程
安部 雄太	3	国際文化課程
石田 麻耶	3	人間科学課程
前野 善行	2	人間科学課程
山陰 史絵	2	国際文化課程
山本 志織	1	国際文化課程
中村 史奈	1	人間科学課程
佐藤 亜沙美	1	人間科学課程



岩手大学大学院 人文社会科学科修士論文発表会開催される

平成19年2月28日(水)、人文社会科学部G1大講義室において、修士論文公開発表会が開催されました。これは、大学院生がその研究内容を専門外の人にも平易に説明し、プレゼンテーション能力を磨くとともに研究成果を広く社会に公開し、発表・意見交換を通じて研究の一層の深化を図ることをめざして行なわれたものです。私は午後の一部に参加しましたが、学生・教職員をはじめ一般の方も多く、限られた時間の中で活発な意見交換がされていました。久しぶりに大学の講義の雰囲気を感じました。今回発表者を以下に紹介します。

- ・大久保ちひろ (人間科学専攻)
大学コミュニティにおけるピア・カウンセリングの効果
～総合大学の事例研究～
- ・廣岡 美里 (人間科学専攻)
カウンセリングにおける「沈黙」研究
～カウンセラーとクライアントの評定をもとに～
- ・高橋 大志 (人間科学専攻)
日記を書くことが精神的健康に及ぼす効果について
- ・菊池 麻由 (人間科学専攻)
臨床心理学的子育て支援の現状と課題
- ・鎌田 紀子 (人間科学専攻)
高機能広汎性発達障害児の感情理解とコミュニケーションに関する研究
- ・菅原 由香 (人間科学専攻)
AD/HD児の自己概念に関する研究
～自己評価における原因帰属の分析をふまえて～
- ・赤坂 映美 (人間科学専攻)
軽度発達障害児を対象としたソーシャルスキル・トレーニングの効果に関する一研究
- ・千葉可央里 (人間科学専攻)
共同想起における記憶変容過程に関する質的研究
～所有情報の差異が与える影響の分析～
- ・板倉 有紀 (人間科学専攻)
見田宗介の社会理論における近代と自己意識
- ・村田 野人 (社会科学専攻)
森林が点在する耕作地生態系における鳥類相に関する研究
- ・中軽米広和 (人間科学専攻)
総合型地域スポーツクラブの育成に関する研究
～理想と現状の間で～
- ・石田 賢介 (国際文化学専攻)
エドワード・サイードの思想におけるアフィリエーション
～ジェントルマン、小説、知識人～
- ・榎 慶梅 (社会・環境システム専攻)
1990年代後半の金融システム再編過程における金融持株会社の位置づけ
～銀行組織経営を中心として～
- ・楊 彦君 (社会・環境システム専攻)
高速向流クロマトグラフィーを利用した水中の微量界面活性剤の分析に関する研究

— 同窓会 舞浜にて開催 —

七友会設立25周年記念同窓会は、平成18年9月30日(土)、ファミリーやカップルでにぎわう、舞浜の東京ディズニーランド、オフィシャルホテルのシェラトン・グランデ・トーキョーベイでおこなわれました。当初、事務局では、定員100名、事前申し込みに限り家族を含め参加費無料としたため、100名をオーバーした場合も想定していました。ところが、ふたをあけてみると、申し込み期間が短かったためか、中には申し込みが殺到して無理だろう…と考えた方もおられたようで100名をこえることはありませんでしたが、60名ほどの参加で、にぎやかに開催されました。学部からは、砂山克彦学部長もかけつけて下さり、一期生から昨春卒業した26期生まで集まって大学のことや仕事の話で盛り上がりしました。

ゲームでは岩手の特産品からホテル宿泊券まで豪華な景品を前に子供から大人まで大いに楽しみました。予定したお時間は、あっという間にすぎ、5年後の30周年記念同窓会での再会を期して、別れを惜しみながら散会しました。

— 「岩手大学全学同窓会」その後の動き —

岩手大学全学同窓会(仮)の設立については、前号で紹介した平山健一学長よりの依頼を受け、概ね賛成の意向を伝えておりましたが、さる9月25日(月)学長と同窓会長との懇談会が開催され、意見交換が行なわれました。その中で、4学部同窓会全体が合意できなければ準備会の設立を急ぐことにはないとする結論に至りました。次に、設立準備に向けたワーキンググループを組織して具体的な検討をすることが了承され、各同窓会から代表1名を推薦することになりました。当会からは、会長指名で、松岡和生・認知心理学教授を代表とし、検討をお願いしました。11月16日(木)には「連合同窓会設立準備ワーキングメンバーの顔合せ会」がもたれ学務担当理事からは、岩手大学創立60周年行事の準備を意識しながら組織化したいという希望が述べられています。

📄 卒業を迎えられた皆さんへ

卒業生の皆さん、ご家族の皆さん、卒業おめでとうございます。就職や進学など、この先、進む道はちがってきますが、岩手大学人文社会科学部で学んだ懐い出を忘れず、絆を深めるためにも同窓会（七友会）では、毎年、このような会報を発行しています。これらを皆さんに送るためには、卒業後の連絡先の把握が重要で、現在のところ、皆さんが卒業後提出される「進路状況報告書」の情報提供に頼っているところです。ただ、転居等で連絡先が不明になることも多く、以下のような情報はぜひ、同窓会事務局の方へもお知らせいただきたいと思います。連絡先は現住所でも実家等家族住所でも構いませんが、確実に連絡のつくところをお願いします。転居等されたときも忘れずお願いします。

なお、寄せられた情報は、同窓会活動のみに利用されるもので、事務局で一括管理されています。また、会費については、ほとんどの方が、入学時に納められていますので、特に請求されることはありません。

同窓会活動は、ほとんど会員のボランティアで運営されています。今後の学部の発展及び同窓会の親睦のための活動に、ぜひ御協力下さい。

連絡先情報

(ふりがな)	卒業	期 (年 月卒)
氏 名	(男・女)	専攻
現住所 〒		(コース) (課程) ゼミ等
TEL (自宅)	/会社or携帯	
FAX		
E-mail		
家族等連絡先 〒		

同窓会への連絡

郵便: 〒020-8550 盛岡市上田3-18-34

岩手大学 人文社会科学部内
「七友会」宛

電話(留守録)&FAX: 047-336-3945

E-mail: office@shichiyukai.net
info@jinsya.com

— 共催で学部就職ガイダンス開催 —

今年度の就職ガイダンスは、去る11月16日(木)、中央生協食堂にておこなわれました。当日は、3年生対象の全学就職ガイダンスもあり、終了後、立食形式で開催されました。卒業生の体験発表や4年生の内定者のなまの体験談もあり、なごやかな中にも真剣な姿がみられました。他学部の学生からは羨ましがられていましたが、就職は、最終的には本人の自覚が重要になってきます。社会状況がだいぶ好転してきているとはいえ、希望にあった仕事をみつけたのは、難しいものです。今回のガイダンスを契機に最後まで諦めずに「夢」に向かって活動して下さい。皆さんの健闘を祈っています。

— 定年退官される先生 —

今年は2名の先生が退官されます。この3月をもって定年退官される先生は、数理科学の石川明彦教授と、テキスト

分析論の菊地良夫教授です。永い間、ほんとうにありがとうございました。両先生には、同窓会より、ささやかではありますが、記念品を贈らせていただきます。両先生とも、しばらくは盛岡におられるようです。

岩手大学人文社会科学部同窓会

Tel(留守録)&Fax: 047-336-3945

E-mail: office@shichiyukai.net

info@jinsya.com

郵便宛先 ※人文社会科学部内「七友会」宛
020-8550 盛岡市上田3-18-34 岩手大学

ホームページもご覧ください!

<http://www.shichiyukai.net/>

<http://www.jinsya.com/> [関東支部]